



MINATO-TOKYO

# みなとユネスコ 会報

# Bulletin

MINATO UNESCO ASSOCIATION NEWS & CALENDAR

ISSUED BY / MINATO UNESCO ASSN. 16-3, SHIMBASHI 3-CHOME MINATO-KU TOKYO 105-0004 / HIROSHI NAGANO PRES.  
発行所 / 港ユネスコ協会 〒105-0004 東京都港区新橋3-16-3 Tel: 03-3434-2300 Fax: 03-3434-2233 発行人 / 永野博  
Mail: info@minatounesco.jp http://minato-unesco.jp

2019年12月1日発行 第158号

## 目次

P1 巻頭言：中国企業が輸出する監視システム	P6 MUA ユース事業：小型船とバスで東京探訪
P2 第75回日本ユネスコ運動全国大会	P7 関東ブロック ユネスコ活動研究会
P3 ユネスコスクール関東ブロック大会	P8 事務局便り
P4-5 国際理解講座ルーマニアのクラシック音楽	

## 中国企業が輸出する監視システム

港ユネスコ協会 名誉会長 三輪公忠



中国の防衛白書を瞥見すると、まず地球上全域に軍事拠点を設けるとしている事に注意がひかれる。吃驚してはいけない。米中勢力拮抗の現実に目を向ければ何も特別目くじらたてることでもない。今やそれが国際政治の紛れもない現実なのだから。

アメリカの軍事拠点と軍事介入の歴史を思いおこせば中国の行動に納得がいくのではないか。むかし米ソの2極対立の時代があった。米ソ冷戦時代のことである。時代は移り、現代の世界的広がりを持った冷戦は米中間に存在していると言って過言ではない。

時代は今や国防も安全保障もAI(人工知能)の援け無しには万全を期し得ない。その折から、習近平を国家主席とする独裁体制下の中国企業は完成度が高い監視システムを世界各地に売り込んでいる。その広がりには既存の国際法世界秩序に中国に都合のいい風穴を開けることになるだろう。中国に都合のいい新国際秩序が生まれ出てくるかもしれない。

我々は日米同盟の枠組みの中にいるので、中国が仮想敵国であることを承知していなければならない。そしてその中国はGDPが今やアメリカに匹敵する経済大国であることも忘れてはならない。かつて一時世界で一番の経済大国に昇りつめんとしていた我が国ではあったが、今日では第5位になっているそうだ。

時あたかもオリンピック開催があと1年と迫った我が国である。メイン会場の国立新競技場の完成も近づいている。成熟国家としての日本のそして日本人の魅力をいやがうえにも万国の来訪者に満喫してもらえたらいいと思う。  
(2019・7・28記)

(三輪公忠=みわ・きみただ=上智大学名誉教授・元同大学国際関係研究所長)

注：本記事は編集上の都合で掲載が遅くなりました

## 「第75回日本ユネスコ運動全国大会 in 東京」に参加して

MUA 副会長 宮下ゆかり

今年のユネスコ運動全国大会は9月7日、8日の両日、東京都豊島区で「学びを通して地域を振り返る」をテーマに、日本ユネスコ協会連盟、東京都ユネスコ連絡協議会、豊島ユネスコ協議会の主催で開催された。「ユネスコ世界寺子屋運動」30年目という節目の年でもあり、識字教育の成果を振り返ると共に、これからの展望について考える良い機会となった。東京での開催ということで、港ユネスコ協会の会員もボランティアとして参加した。



佐藤美樹会長、池田敬介都ユ連会長による開会挨拶、豊島区長の来賓挨拶、オードレ・アズレ・ユネスコ事務局長によるビデオ祝辞で始まった全国大会は、「世界寺子屋運動 30周年記念動画」上映で幕を開けた。続くディスカッションは「寺子屋は途上国の人びとに何をもちたることができたかー学習者の声を聴く」と題し、学校教員になったアフガニスタンの男性、識字クラスで学んだあと市議員になったネパールの女性、高校に進学したカンボジアの女性の3人がそれぞれの経験を語り、更にコメンテーターとしてスタディーツアーに参加した日本の高校生も感想を述べた。

続いてのウルリケ・ハネマン博士による「成人識字教育とノンフォーマル教育がSDGs達成に果たす貢献」と題した基調講演では、生涯学習とSDGs達成の関係についての研究・分析が発表された。さらにパネルディスカッションと総括セッションで「世界寺子屋運動とSDGs」「これからの世界寺子屋運動の役割と展望」が議論され、第一日目のプログラムを終えた。



第2日目は「学びを通して共生社会を創る」と題したパネルディスカッションで始まり、日本でも対応が迫られている外国人世帯の子供の教育問題が論じられた。続く基調講演では映画「寅さん」「学校」シリーズで知られる山田洋次監督が、「2019年 寅さんの学校論」について語って下さった

最後は、来年の全国大会開催地である山口からの出席者が壇上に上がり挨拶をして、盛況のうちに東京大会の幕を閉じた。

## ユネスコスクール関東ブロック大会 2019

月日:2019年10月5日(土)

開催場所:玉川大学

出席者:平方一代

今度の大会は下記の2部から構成されていました:

- ①グループ分けの上、グループごとにユネスコスクールに関する問題点の検証と改革案を討議
- ②講堂での全体講義。

また、発表者4名が登壇して、それぞれの地元で推進している「ユネスコと地域の学校や学生との関わり方」を紹介しました。私も登壇して以下のとおり、港ユネスコ協会(MUA)の事例を発表しました。

港ユネスコ協会と地域の学校や学生との関わり:

### 1. 東京都立三田高等学校

三田高校は1957年にユネスコスクール認定を受けており、初の帰国子女受け入れ校として知られる国際理解教育の先駆です。同校の学生が毎年MUA事務局を訪問する度に講話会を実施しています。2019年6月20日訪問された時の講話会では、当協会理事清水軍治氏が「第二次世界大戦中の体験談」を話しました。

三田高校のホームページには港ユネスコ協会を紹介する「あの頃、この頃 - 港ユネスコ協会」というコーナーが設けられており、ここで同校が港ユネスコ協会と一緒に行った活動が記載されています。

### 2. 東京都立六本木高等学校

六本木高校は2017年にユネスコスクールに認定されました。同年7月21日、MUAの永野会長と菊地副会長が同校を訪問して、記念プレートを贈呈しました。

### 3. 玉川大学および慶應義塾大学

MUA主催の年次日本語スピーチコンテストにおいては、両大学のご協力を頂いています。同コンテストは、1部がスピーチコンテスト、2部がスピーカーと見学者によるディスカッションという2部構成になっています。2部において、玉川大学小林亮教授のご指導のもと、玉川大学ユネスコクラブと慶應義塾大学ユネスコクラブの学生達が参加してファシリテーターを務めています。

### 4. 東京海洋大学

MUAは東京海洋大学と連携して、SDGs14の達成に向けた環境認識のための運河クルーズを実施しています。具体的には環境・学習プログラム「港ユネスコSDGs運河クルーズ」で、港区芝浦や古川沿いを小型船でクルーズしています。東京海洋大学海洋政策文化学科の佐々木剛教授と学生、水圏環境教育学研究室学生、慶應義塾大学ユネスコクラブ学生、港区立小中学校の学生等が参加しています。また、JR東日本の水辺活性化に向けた社会実験ダイジェストとも連携しています。

この運河クルーズ体験動が目指している①水圏環境の観点から、私たちの生活排水が海を汚すことへの危惧、②水圏環境を守る活動により東京湾に魚を呼び戻すこと、などの気づきをとおして、皆が水圏環境を意識することが将来の豊かな環境を享受できることにつながる点を学んでいます。

(副会長 平方一代)



## 2019年 第2回 国際理解講座

### 「ルーマニアの風土が育むクラシック音楽」

講師：嶋田和子氏

日時：2019年9月12日 18:30～20:30

会場：港区生涯学習センター305号室

NPO 法人日本ルーマニア音楽協会の理事長である嶋田和子氏をお招きして、ルーマニアという国について、とりわけ音楽事情を中心にお話を伺った。

#### 1. ルーマニアとの出会い

ルーマニアと聞いて連想するのがコマネチ、ドラキュラなどだが、実は東欧唯一のラテン系の国であり、言語もイタリア語に近い。1999年、ピアノ教師として活動中に偶然ルーマニアの音楽と出会い、2001年初めてこの国を訪ねた。ご縁が出来て日本ルーマニア友好100周年記念行事に同行して演奏会を開き、学校訪問したいと希望したところすぐにOKが出て、日本語クラスの視察が実現。生徒たちは日本アニメに親しんでおり、彼らの日本愛に驚き、感動した。以後10年以上、交流が続いている。



#### 2. ルーマニアの基礎情報（画像を見ながら）

東欧の国であり、黒海に面する。ジョルジュ・エネスク博物館、アテネ音楽堂、ルーマニア国立歌劇場などは必見。世界遺産のマラムレッシュ（木の教会）は心が安らぐ。「愉快なお墓」は、故人の生前の姿が描かれた陽気な墓地である。日本では「ドラキュラ伯爵」として知られるヴラド3世は、ルーマニアではオスマン帝国の侵略から守った英雄と捉えられている。市場には豊富な食品が並ぶ。ワイン、チーズ、サラミ、パプリカ、カリフラワー、レモネードなど。コメ入りのスープもおいしい。日本と違い、コウノトリは普通に飛んでいるのが見られる。

#### 3. 音楽事情

ルーマニアの音楽家として一番に挙げるならジョルジュ・エネスク（George Enescu）である。作曲家・ヴァイオリニスト・指揮者であり教育者。ジョルジュ・エネスク博物館にはホールがあり、私たちも時々演奏させて頂く。もう一人、ディヌ・リパッティを紹介したい。ピアノを学ぶ者にとってはピアノの神様と呼ばれる人物である。ジョルジュ・エネスク国際コンクールとフェスティバルは隔年ごとに開催され、世界中から4,000人を超える音楽家がブカレストに集合する。2016年には日本人で初めて石井琢磨氏（Mr. Takuma Ishii）がピアノ部門第2位を受賞した。ルーマニア出身で現在活躍しているアーティストには、ラドゥ・ルプ（Radu Lupu）、インナ（Inna）、アンジェラ・ゲオルギュー（Angela Gheorghiu）らがあり、民族音楽で有名なのはゲオルゲ・ザンフィル（Gheorghe Zamfir）である。日本にまで彼らの名声が届いていないことを残念に思う。

#### 4. 協会主催コンクール

[ルーマニア国際音楽コンクール] ピアノ、声楽、弦楽器、管楽器、打楽器、アンサンブルの6部門で審査。開催は15回を重ねてきた。審査基準は「これから活躍していきたくらうという将来性」と「舞台と会場が一体となってパフォーマンス出来る方」の2点であり、技術が素晴らしいというだけでは入賞できない。入賞者の中には世界で活躍する方もいるし、後進の指導に当たる方もいる。

[ルーマニア国際音楽コンクール Jr 版赤坂ジュニア音楽コンクール] 入賞者披露演奏会会場はルーマニア大使館。ルーマニア特命全権大使であるタチアナ氏が、「今ルーマニアを知ってもらおうことが、50年、100年先の日本とルーマニアの交流を応援することになる」との信条で応援して下さっている。

[ルーマニア演奏旅行] 毎年10月に開催。今回初めて、ジュニア音楽コンクールでグランプリを取った小学生が参加する。会場は、ルーマニアで最も美しいと言われるペレシュ城 (Peles Castle) 他3か所でコンサートを開催する。

#### 5. 今後のルーマニアとの交流

従来の活動に加え、Icon Arts 主催のサマーセミナーに参加。昨年、ルーマニア大使館に日本ルーマニア音楽協会からグランドピアノを寄贈したので、大使館で演奏会開催を予定している。日本の方々にルーマニアをもっと知って頂きたい。ルーマニア料理に関心がおありでしたら、錦糸町のラ・ミハイをお勧めします。

映像を見ながらのお話には、ルーマニア愛があふれていました。最後の質疑応答では、ルーマニアに是非一度行ってみたいという声が複数ありました。なお、嶋田氏には港ユネスコ協会の「ルーマニア料理」「ルーマニア大使館訪問」についても多大なご協力を頂きました。この場を借りて感謝申し上げます。

(副会長 宮下ゆかり)

---

### (P. 6 からつづく) 小型船とバスで東京探訪!! 「東京の森川海を知る」

このうち浜離宮恩賜庭園沿岸部では、徳川幕府から許可を得て今日まで漁を営む歴史ある漁師さんの漁を見せて頂きました。子供達は漁で採れた魚や、網にかかったカニ、ハゼ、エビなどを見て興味津々でした。また、JR 東日本の方による竹芝ウォーター・フロント開発 (右手に浜離宮恩賜公園が見える) の説明において、開発に当たって実施した環境調査から以下の結果がわかったとのお話がありました：

- ①砂泥域の干潟環境
- ②岩礁帯を生息地とする水生生物が生息し、生物の多様性が保たれている

一日の活動が終了した時点で、東京海洋大の佐々木教授から参加者全員に「小型船とバスで東京探訪!! 東京の森川海を知る」修了証書が授与されました。

MUA スタッフからひとこと：

晴天に恵まれ、浜離宮恩賜庭園沿岸の船上での昼食はまたとない機会でした。参加した女子中学生は「住まいの近くを流れる川を巡ることが出来て良かった」と感想を述べていました。また、小学生の男子は「とれた魚を自宅で育てる」と魚を慎重に持ち帰りました。江戸時代から続く由緒ある漁師さんと JR 東日本さんにご協力を頂き、充実した小型船クルーズとバスの旅を実現できました。この場をお借りして御礼申し上げます。

私たちの使った生活排水は、海に流れていきます。佐々木教授ご指導の水圏環境エデュケーターには7つのポイントがあります。そのうち私は以下の3つを実践しています。

- ・食器は汚れを拭き取ってから洗う。
- ・油は流さない。
- ・三角コーナーには、水切り袋を使う。

簡単なことから実行することが大事だと考えさせられる企画でした。

(副会長 平方一代)

MUA コース委員会事業  
小型船とバスで東京探訪!! 「東京の森川海を知る」

日時:2019年10月20日(日)9時00分~16時00分

場所:東京海洋大学白鷹館講義室に集合、竹芝栈橋にて解散

昨年につづき2回目となるこのユース委員会事業には、港区内の大学・中学・小学校の学生、港区在住の一般のかたなどを含む合計41名のかたが参加されました。当日は船上での昼食を挟み、下記のとおり午前・午後と盛り沢山の活動を楽しみました。

活動内容

- ①東京海洋大学白鷹館講義室にてスケジュール説明(司会 慶應大学ユネスコクラブ 松本謙梓さん)
- ②港ユネスコ協会 永野 博会長 ご挨拶
- ③東京海洋大学 海洋政策文化学科 佐々木 剛教授の講話
- ④小型運河船に乗り古川・浜離宮沿岸をクルーズ
- ⑤東京海洋大学生の研究発表を聴く
- ⑥浜離宮沿岸部にて漁業見学
- ⑦船上で昼食
- ⑧竹芝ウォーター・フロント開発事業を見る  
(東日本旅客鉄道株式会社のかたから水辺を生かした街づくりの説明を受ける)
- ⑨天王洲で下船~バスに乗車
- ⑩古川沿いに麻布~渋谷~明治神宮前~新宿御苑~竹芝栈橋のルートバスを巡る
- ⑪修了証書の授与式  
(佐々木教授から、「小型船とバスで東京探訪 東京の森川海を知る」参加の修了証書が授与される)
- ⑫バスの前で記念写真を撮って、解散。



①



①-2



⑤



⑪



⑥



⑥-2



⑧

(P. 5へ続く)

## 関東ブロック ユネスコ活動研究会

月日：10月5日（土）～10月6日（日）

会場：埼玉県蓮田市総合文化会館（ハストピア）

2019年度の研究会は上記の二日間にわたり、蓮田市ハストピアにおいて開催された。私は10月5日（土）のオープニング・イベントとパネル・ディスカッション、分科会に参加し、まずは蓮田市立蓮田中学校の吹奏楽部の演奏（下の写真）に感動した。この中学校はユネスコスクールだそうで、吹奏楽部コンクールでは常に好成績を収め、週末には施設で演奏すると聞いた。まさに地元で根付いた活動を続けていると心強く感じた。



パネル・ディスカッションでは「地球規模における環境変化」をテーマに、オーストラリア南極局の海洋生体学者と日本の国立極地研究所の陸上生態学者がそれぞれの知見を発表された。南極のオキアミ等を長年に渡って調査研究されてきた科学者は、40年も前から環境変化について警鐘を鳴らしてこられたとのこと。フロアからの質問では、気候変動が既に私たちの生活に影響を与えていること、オキアミや人間を含む地球上の生物がこれに順応していけるのか等の懸念が表明された。分科会の発表では、茨城キリスト教学園中学高校の発表が印象に残った。



ユネスコの歌合唱



パネル・ディスカッション

来年度の関東ブロック研究会は群馬県の高崎にて10月に開催の予定。群馬ユネスコの方たちが大勢参加されており、来年への意気込みを示され、頼もしく思った。

（副会長 宮下ゆかり）

## 事務局便り

【ようこそ新入会員】 個人会員：末次彩華さん、山井則子さん、渡辺貴美子さん  
学生会員：山井愛深さん

【今後の事業予定】（詳細は別途、チラシ、HP、Facebook、Twitter、港区報等でご案内します。）

☆ 12月1日（日） 港ユネスコ協会会報 和文158号、英文157号発行

☆ 12月6日（金） 平和を考えるシリーズ第1回シンポジウム

「気候変動についてできること～SDGsのための学びとアクション」

講師：永田佳之氏（聖心女子大学教授）、岡田英里氏（聖心女子大学4年生）

保坂直紀氏（サイエンスライター、東京大学特任教授）

場所：港区立生涯学習センター101号室

☆ 12月7日（土） 書道体験教室、講師：金田翠夢（毎日書道展会員）

場所：港区立生涯学習センター304号室

☆ 12月14日（土） 第三回日本語スピーチコンテスト

日本在住外国人による日本語でのスピーチ（スピーカーとの懇談時間あり）

テーマ：①「日本って、どんな国、外国人が感じたもの」若しくは

②「気候変動に思うこと」

場所：港区立生涯学習センター101号室

☆ 12月17日（火） MUAサロン、講師：森村俊介氏（MUA理事、森村商事株式会社顧問）

場所：港ユネスコ協会事務局

☆ 12月23日（月） 茶の湯入門講座：3回コースで1月27日（月）および2月25日（月）も開催

講師：小野 宗恵（裏千家 専任講師）、場所：港区立生涯学習センター203号室

☆ 1月8日（水） 【冬期】初級英会話講座（12回コース）

～3月25日（水） 講師：マーク・マードック先生

毎水曜日

場所：港区立麻布区民センター

☆ 1月8日（水） 【冬期】中級英語講座（10回コース）

～3月11日（水） 講師：笠原三郎先生

毎水曜日

場所：港ユネスコ協会事務局

☆ 1月23日（木） 新年会員懇親会、場所：NEC三田ハウス

☆ 1月25日（土） 茶の湯体験教室、講師：松村宗幸（裏千家 専任講師）

場所：港区立生涯学習センター203号室

☆ 1月26日（日） 世界の味文化紹介「イタリアの家庭料理」

講師：須田祐司（四谷三丁目「ラ・ヴィータ」オーナーシェフ）

場所：港区立男女平等参画センター「リーブラ」料理室

☆ （日程調整中） 坐禅体験講座（企画中）

### 【ご協力お願い】

- ・日本ユネスコ協会連盟の東日本大震災子ども支援募金は、常時受け付け中です（MUA事務局まで）。
- ・日本ユネスコ連盟協会の「首里城復興ユネスコ募金」は、来年2月25日までMUA事務局で受け付け中。

### 【編集後記】

- ・『おやじのビル』の愛称で知られる「ニュー新橋ビル」は、JR新橋駅烏森口にあり（おやじ）サラリーマンの憩いの場であり散策場所でもある。この地は終戦直後は闇市のメッカであり、やがて木造平屋長屋形式の店舗街「新生マーケット」ができ、その後昭和46年に現在のビルが竣工している。耐震強化と老朽化に伴い再開発計画があり、残念なことに、近々取り壊されるとのことである。加えて、1月17日よりJR新橋駅「烏森改札」は「南改札」に名称が変更されている。さすがに、駅舎の出入口である「烏森口」と「汐留口」の名称は残るようですが、慣れ親しんだものが消えてゆくには一抹の寂しさを感じる。（津野久志）
- ・先日タイタニック号沈没に関するTV番組を見て、出港当初から燃料室に火災が起きていたのに、安全よりもメンツを優先した経営陣が招いた人災であつたらしいと知り、人間の弱さを感じた。（棚橋征一）
- ・持続可能な開発目標(SDGs)を設定し、第5世代型の移動通信システム(5G)を掲げ、IoT・ビッグデータやAIを活用したイノベーションで社会的課題を解決していく Society5.0 を目指しているが、同時に究極的な幸福度は何かなど、哲学的な価値観の議論も大切になるのではないか。（前田幹博）

港ユネスコ協会事務局（火～金 10:30～17:00）

〒105-0004 東京都港区新橋3-16-3 TEL03(3434)2300 TEL・FAX03(3434)2233

Eメール：[info@minatounesco.jp](mailto:info@minatounesco.jp) ウェブサイト：<http://minato-unesco.jp>